

令和 7 年度第 2 回 J R 小野田線活性化委員会

令和 8 年 3 月 2 日（月） 1 0 時～
A スクエア 第 4、第 5 会議室

1. 開 会

2. 委員長あいさつ

3. 議 題

（1）報告第 1 号

令和 7 年度の小野田線沿線地域の公共交通活性化に向けた実証事業の実施状況について

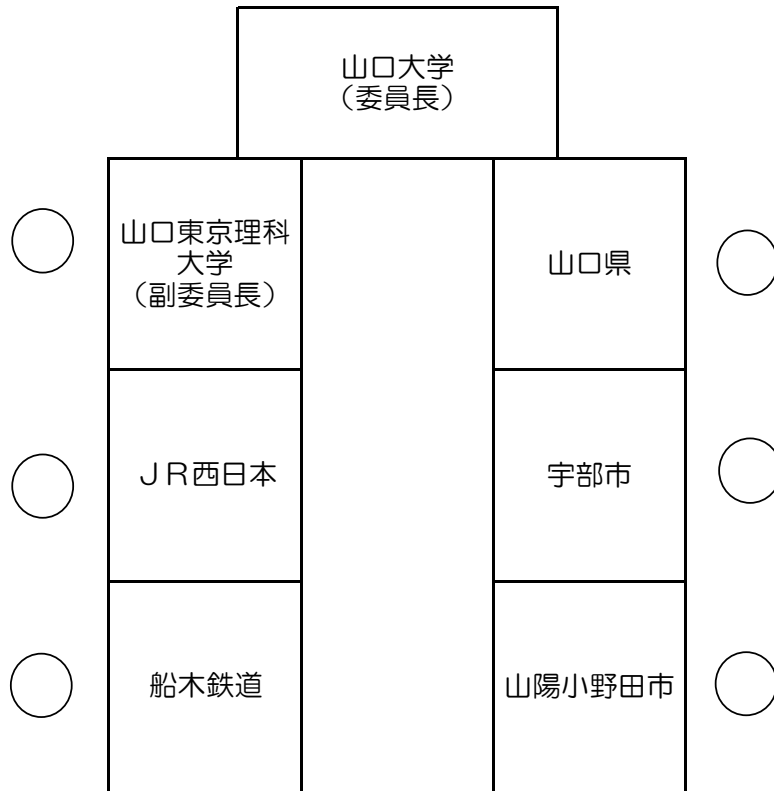
（2）議案第 1 号

令和 8 年度活動方針及び事業計画（案）について
令和 8 年度収支予算（案）について

4. そ の 他

5. 閉 会

配席表



J R 小野田線活性化委員会 出席者名簿

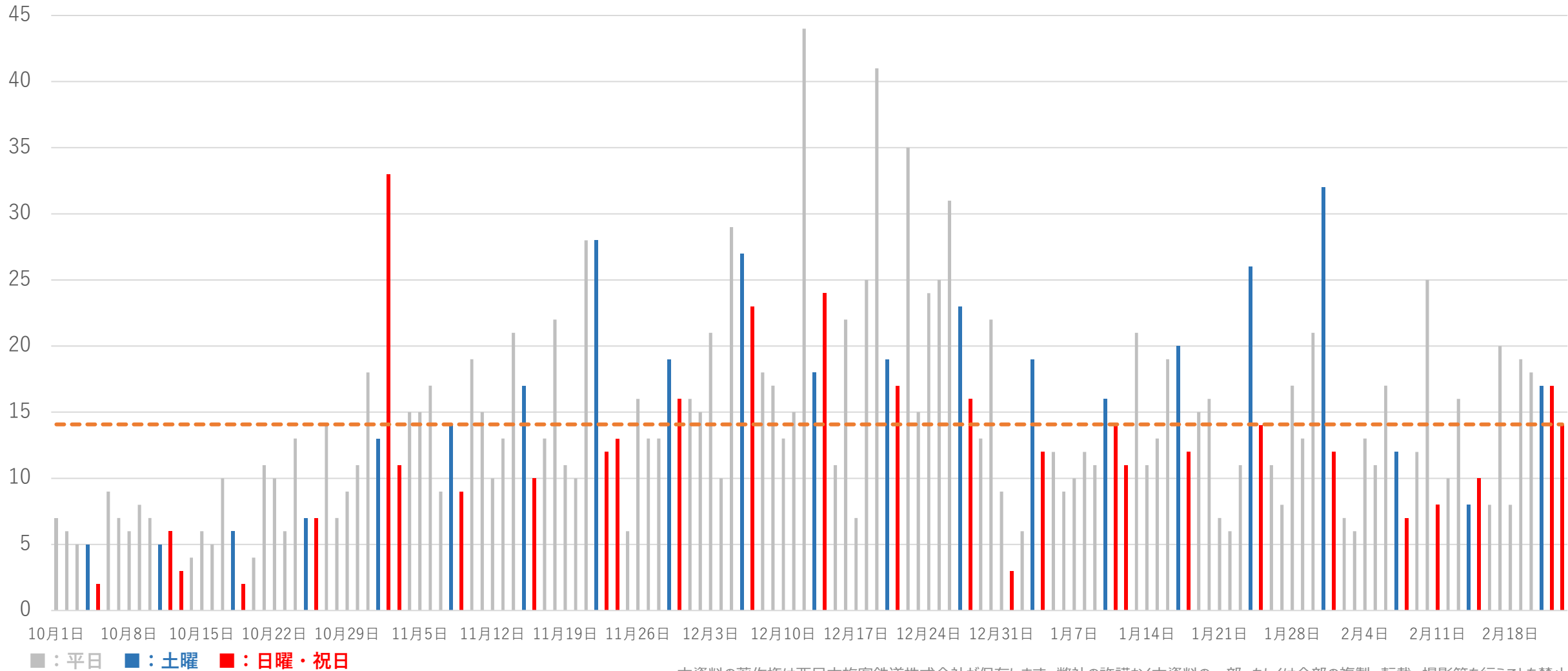
団体名	役職等	名前	備考	出欠
国立大学法人山口大学	大学院創成科学研究科教授	榊原 弘之	委員長	出
公立大学法人山陽小野田 市立山口東京理科大学	工学部電気工学科教授	井上 啓	副委員長	出
西日本旅客鉄道株式会社	中国統括本部広島支社 地域交通（山口）課長	西嶋 俊輔		出
船木鉄道株式会社	代表取締役社長	田中 敬一		出
山口県	観光スポーツ文化部 交通政策課主任	塩田 裕子	監事	代理出席
宇部市	都市政策部長	磯中 克文		出
山陽小野田市	経済部部長	高橋 雅彦		出

令和 7 年度の小野田線沿線地域の公共交通活性化 に向けた実証事業の実施状況

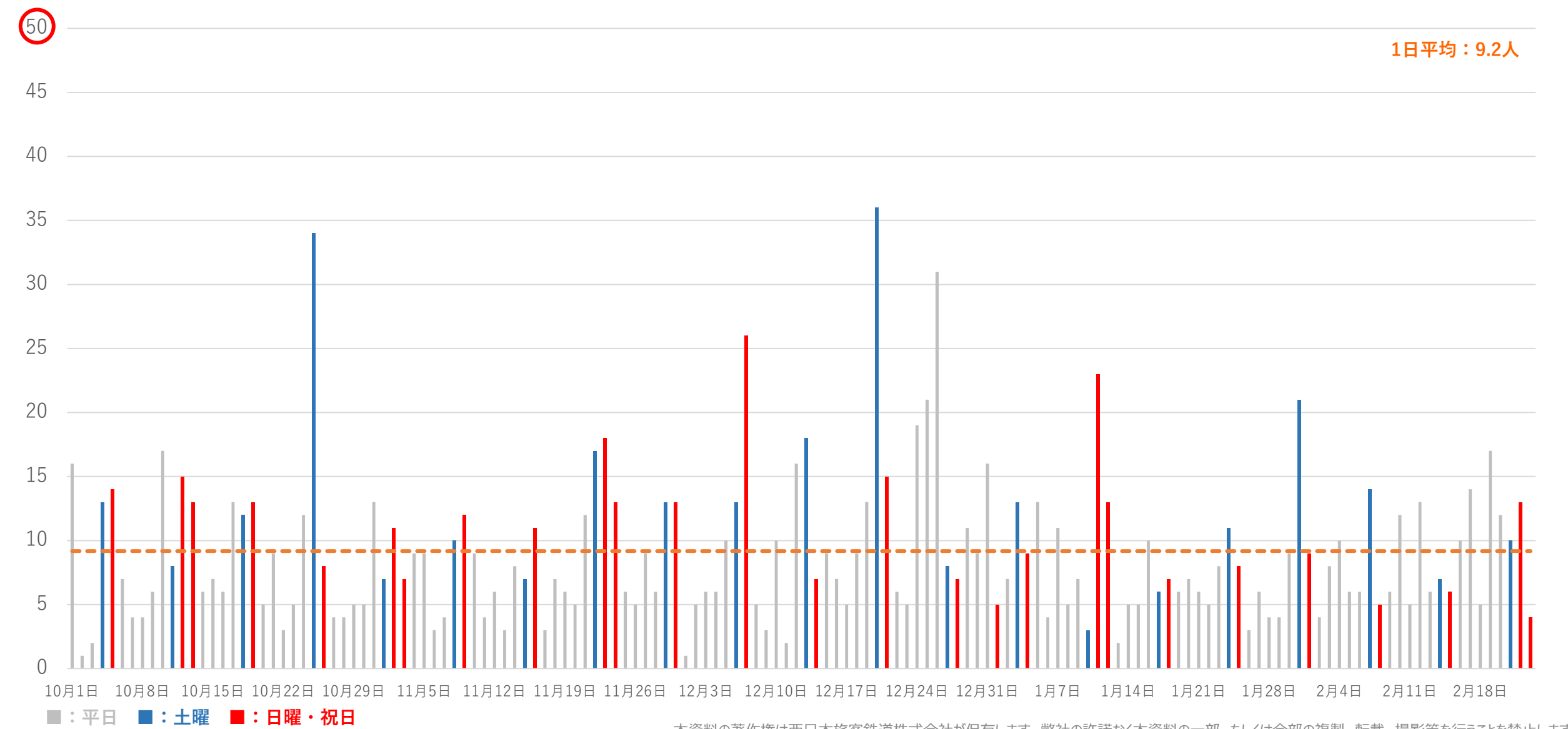
8241M最大乗車人数（宇部新川駅21:13発 → 小野田駅21:42着）

50

1日平均：14.1人

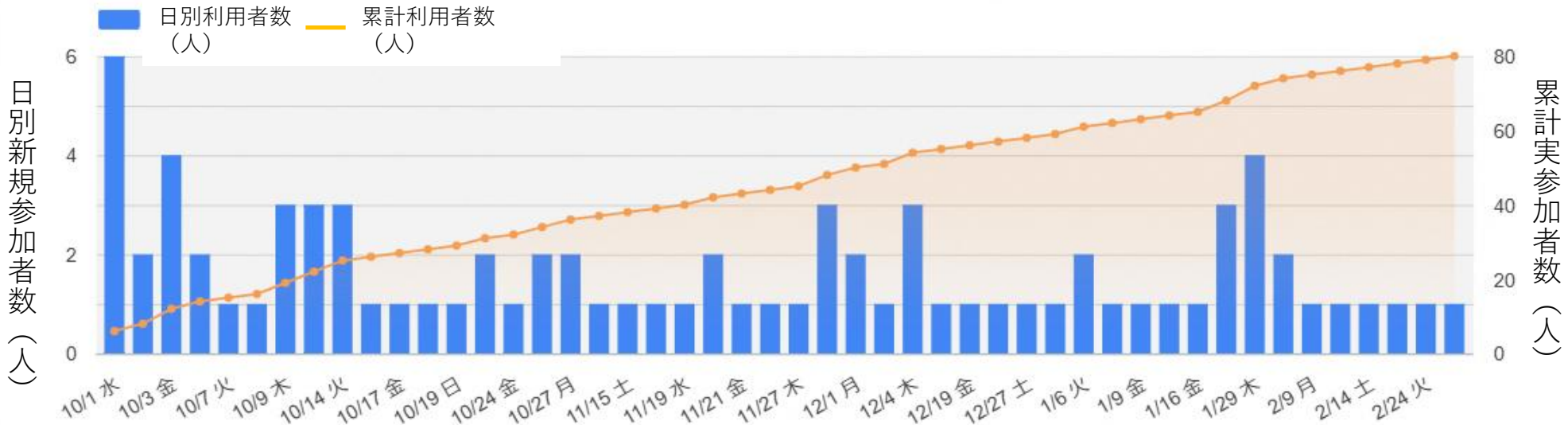


8244M最大乗車人数（小野田駅22:19発 → 宇部新川駅22:47着）



実参加者数

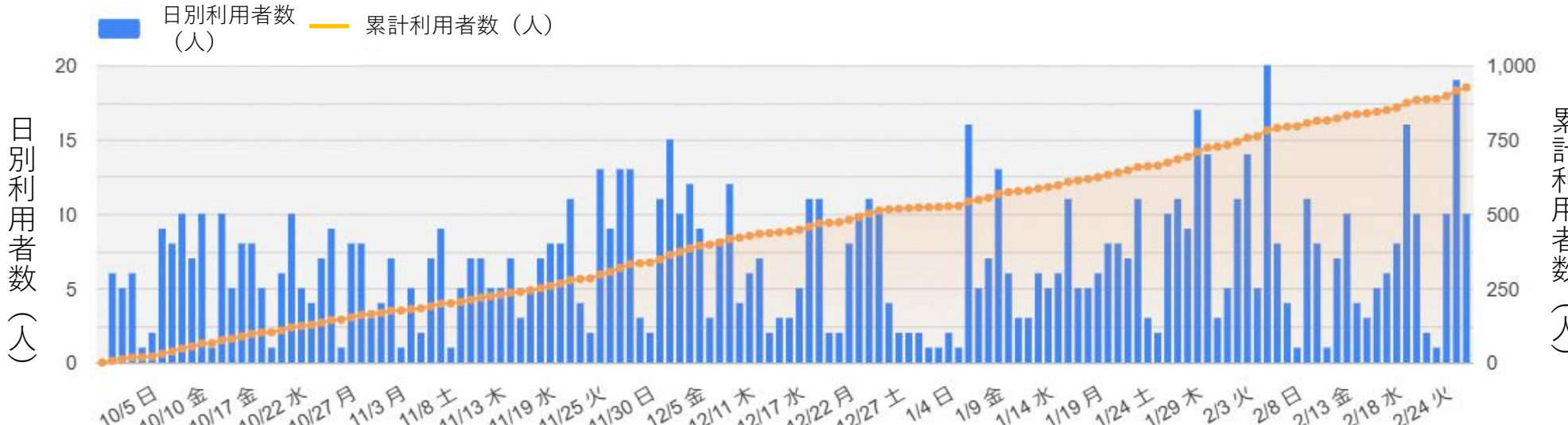
80



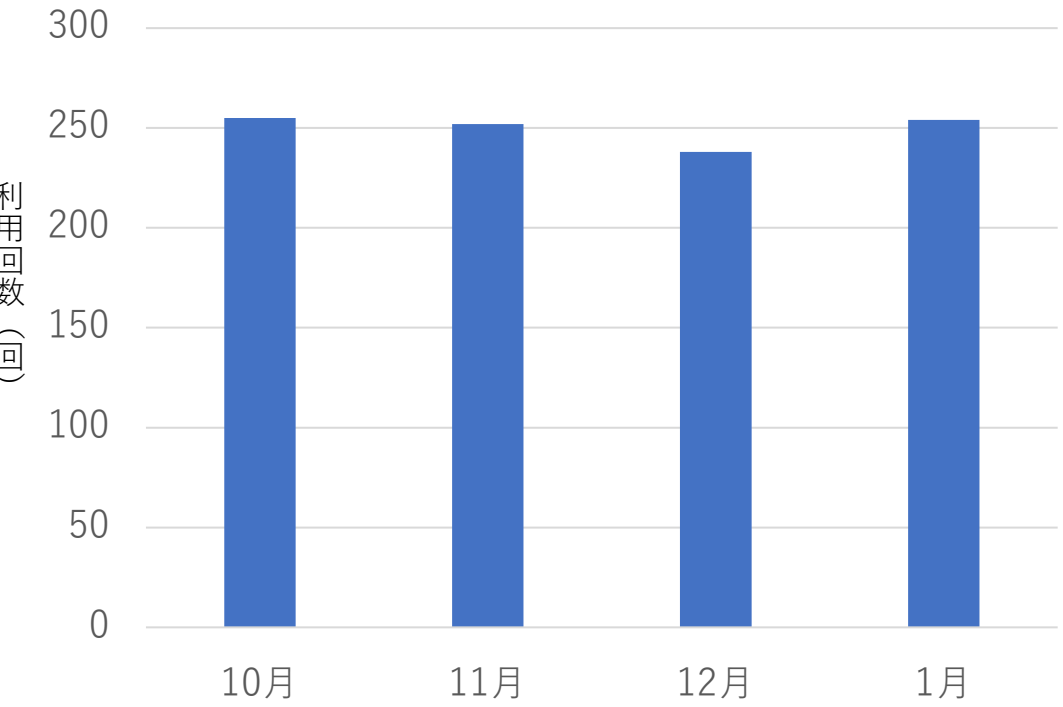
延べ利用回数

925

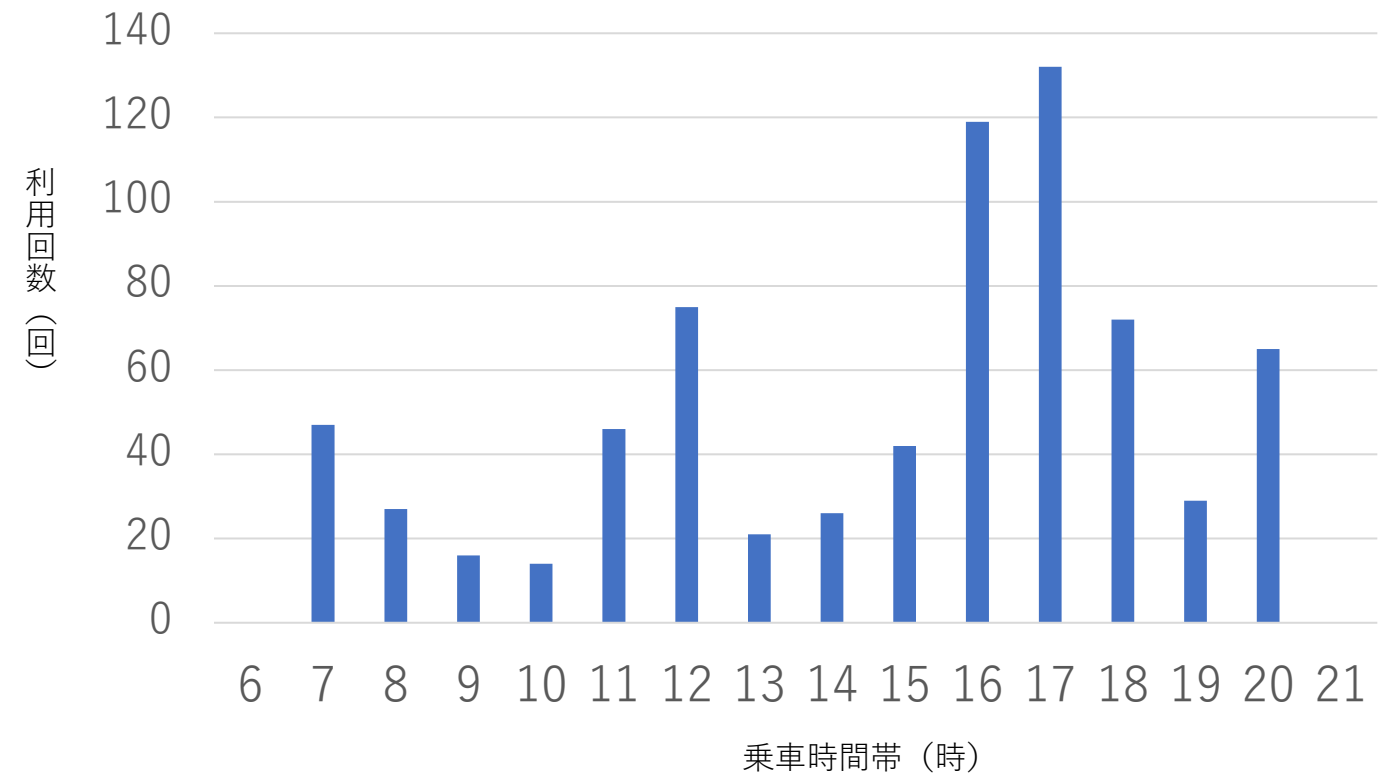
※通信不良等でデータが不完全なものは除く



月別ご利用回数



時間帯別利用回数(回)



※集計期間：2025年10月1日～2026年1月末日
通信不良等で乗降時間帯が不明なものを除く

順位	利用区間	回数
1	小野田駅 → 千代町	75
2	小野田駅 → 南浜河内	53
3	公園通 → 小野田駅	51
4	小野田駅 → 小野田港	42
5	小野田駅 → 西の浜	42
6	小野田駅 → 本町	36
7	サンパークおのだ → 小野田駅	28
8	小野田駅 → 公園通	28
9	小野田駅 → サンパークおのだ	27
10	理科大前 → 小野田駅	23

※集計期間：2025年10月1日～2026年1月末日
通信不良等で利用区間が不明なものを除く



小野田駅→市街地方向
市街地→小野田駅方向

令和 8 年度活動方針及び事業計画（案）

1 活動方針

J R 小野田線活性化委員会では、J R 小野田線沿線地域において、鉄道とバスが連携した持続可能な地域公共交通の形成に向けて、「鉄道・バス共通乗車制度実証事業」や「小野田線の最終便の増発事業」を令和 7 年 1 0 月から実証的に実施してきたところである。

これらの実証事業の実施状況を踏まえ、令和 8 年度においても実証事業を継続し、J R 小野田線の抜本的な利便性向上を図るためのニーズを把握し、利用者の増加につなげていく。

2 主な事業内容

（1）J R 小野田線「鉄道とバスの共通乗車制度」実証事業

本市の交通政策や公共交通の実態に造詣の深い学識経験者の指導・助言や、交通コンサルの調査・分析を通じて得られた課題や利用者ニーズ、他事例の状況等を踏まえ、J R 小野田線「鉄道とバスの共通乗車制度」実証事業を継続して実施する。あわせて、活性化委員会や勉強会を開催し、実証事業の進捗の確認や制度改善に向けた協議を行う。

《対象者》

高校生（小野田工業高、小野田高、サビエル高校）

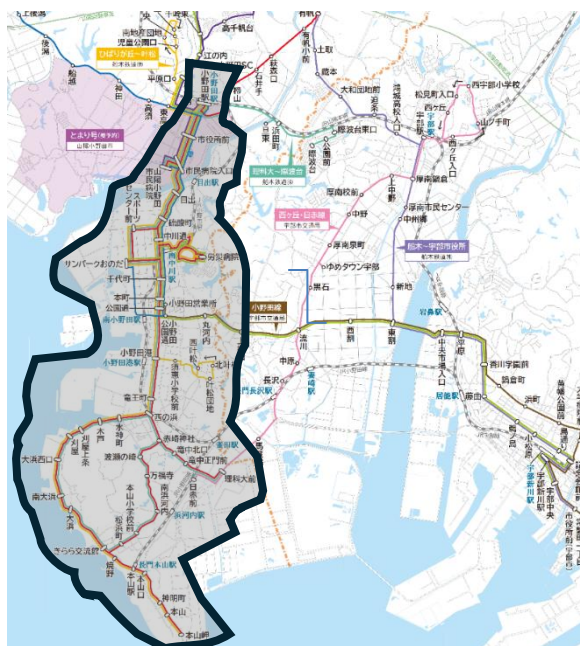
大学生（山口東京理科大学）

通勤者 等

《対象区間》

J R 線 小野田駅～雀田駅～長門本山駅

バ ス 船木鉄道 小野田駅～公園通り～本山岬



《期間》

令和8年4月6日（月）～令和9年3月31日（水）

《実証事業のバスの利用料金》

より多くの利用実績を得るため、無料で実施

■事業費

○バス利用実績に対する運賃支払い（4,470千円）

実証事業における船鉄バスの利用実績に対して運賃の支払いを行う。

＜算出根拠＞

想定参加者数（高校生、大学生、通勤者）：330人

1回あたりバス運賃補填額（バス定期額相当）：113円

1ヵ月あたりバス利用回数：10回/人

1ヵ月あたりバス運賃 $330 \times 113 \times 10 \div 373,000$ 円

実施期間 12ヵ月

$373,000 \text{ 円} \times 12 \text{ 月} \div 4,470,000$ 円

＜負担額＞

JR西日本 3,130千円

JR小野田線活性化委員会 1,340千円

○アンケート回答者への謝礼（330千円）

アンケートに協力していただいた方への謝礼として図書カード（千円分）を送付する。

（2）JR小野田線最終便の増発の実証事業

令和7年度の実績を踏まえ、令和8年度も継続実施するとともに、小野田線沿線の飲食店等と連携したキャンペーンを実施し、最終便のさらなる利用促進を図る。

＜小野田線最終便の増発＞

- ・宇部新川駅 21時13分発 ⇒ 小野田駅 21時42分着
- ・小野田駅 22時19分発 ⇒ 宇部新川駅 22時47分着

（参考：増発前の小野田線最終便）

- ・宇部新川駅 19時23分発 ⇒ 小野田駅 20時00分着
- ・小野田駅 20時06分発 ⇒ 宇部新川駅 20時34分着

《期間》

令和8年4月1日（水）～令和9年3月31日（水）

■事業費

○ＪＲ小野田線最終便増便に係る負担金（３，３００千円）

○利用促進キャンペーン（８００千円）

増発した最終便の利用促進を図るため、小野田線沿線駅周辺の飲食店と連携したキャンペーンを実施する。

キャンペーンの内容については、今後、山陽小野田市料飲組合等と協議の上、検討する。

・キャンペーンの例（７５０千円）

小野田線を利用して飲食店を利用した方にドリンク一杯無料券を配布
ドリンク１杯無料券 ５００円

実施期間 １ヶ月（３０日）想定利用者数 ５０人／日

$500 \text{ 円} \times 30 \text{ 日} \times 50 \text{ 人} = 750,000 \text{ 円}$

・チラシ印刷、郵送料（５０千円）

３ その他

本事業計画は、沿線２市及び県から本協議会に支出する負担金又は補助金の予算が、各市議会及び県議会で可決された場合に限り実施します。

令和8年度 収支予算（案）

【収入】

（単位：千円）

項 目	本年度	前年度	増 減	摘 要
負担金	6,890	1,410	5,480	沿線各市負担金 （山陽小野田市3,330千円、宇部市370千円） 鉄道・バス共通パス実証事業負担金 （J R 西日本3,190千円）
補助金	2,050	750	1,300	山口県地方ローカル線活性化事業補助金 （地方ローカル線利用促進取組強化事業（1/2）
諸収入	0	0	0	
計	8,940	2,160	6,780	

【支出】

項 目	本年度	前年度	増 減	摘 要
会議費	20	20	0	学識経験者報酬（委員会・勉強会） （2,000円×2名×5回） 20
事務費	20	10	10	事務局消耗品、手数料等 20
事業費	8,900	2,130	6,770	鉄道・バス共通乗車制度実証事業 4,800 バス利用実績に対する運賃支払い 4,470 アンケート回答者への謝礼（図書カード） 330 J R 小野田線最終便増発実証事業 4,100 負担金支払い 3,300 利用促進キャンペーン 800
予備費	0	0	0	0
計	8,940	2,160	6,780	